

巻頭写真 浙江省田螺山遺跡で出土した新石器時代の木製品の調査

Investigation of Chinese Neolithic wooden artifacts excavated from the Tianluoshan site in Zhejiang

新学術領域研究「稲作と中国文明—総合稲作文明学の構築」(領域代表者:中村慎一金沢大学教授)では、主要なフィールドのひとつとして河姆渡文化の低湿地遺跡である田螺山遺跡(紀元前5000~3500年)での学際的調査を展開するなか、植生史関連の研究も着実に成果をあげている。ここでは木製品調査の現状について紹介する。

田螺山遺跡は、浙江省余姚市三七市鎮の郊外にある小盆地のなかの微高地に立地し、周辺には現代の水田がひろがる。南西約7kmのところには河姆渡遺跡が位置する。田螺山遺跡の発掘調査は2004年より行われ、河姆渡文化層(第3~8層)から土器や石器とともに多量の有機質遺物がきわめて良好な状態で発見された。多数の木製品も出土したほか、木造建築の柱や矢板、杭の多くは原位置を保った状況で見つかった点が特筆される。林立する柱やその根元にある礎板、木組みの遺構や貯蔵穴などは、出土した様子をそのまま展示する目的で現場に残され、巨大なドームで覆われている。その状況は「田螺山遺址現場館」として一般に公開され、発掘現場の臨場感を伝えている(写真1)。

現場から文化層ごとに取り上げられた木製品は約500点に及び、櫂、斧柄(写真2)、筒形木器のほか、蝶形器と呼ばれる河姆渡文化に特徴的な製品がおもな器種としてあげられる。一部は保存処理ののち、ドームに隣接する展示室や省内各地の博物館で展示されているほか、大部分の木製品は現場館内の収蔵庫に水浸け状態で保管されている。

前身となった以前の科研調査も含めると2004年以来、田螺山遺跡で木製品の樹種同定(写真3)および実測作業を進めてきた結果、樹種データの蓄積は1000点を超え、また120点の木製品について図化を果たした。樹種同定に際して



写真1 ドーム内の遺構保存状況。



写真2 斧柄の実測作業。

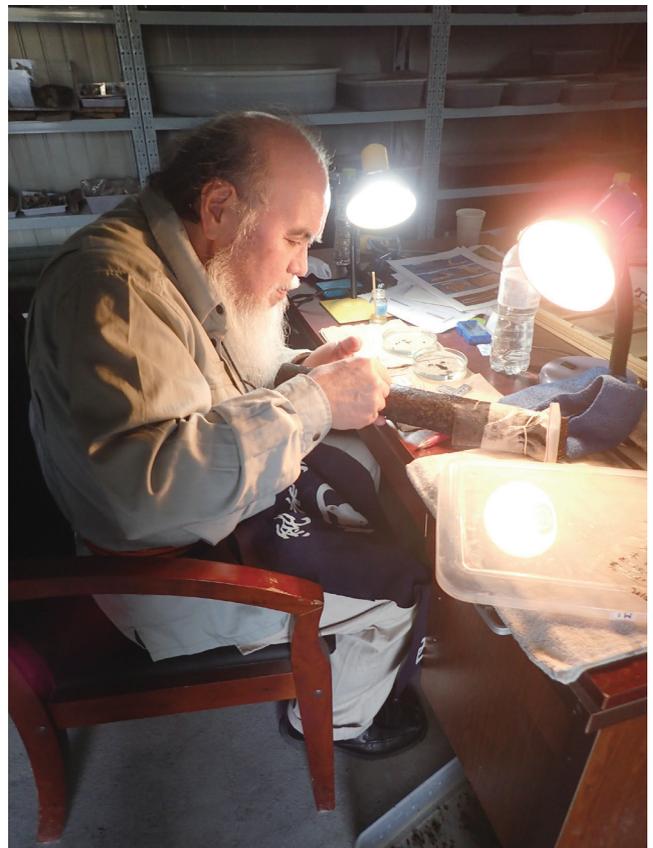


写真3 筒形木器のサンプリング。



写真4 角柱の実測作業。



写真5 柱の表面に残る刃こぼれの痕跡 (写真中央)。

は、現場で保管されている柱などについてはブロック状のサンプルを採取し、取り上げられた木製品については、収蔵庫で直接切片を取ってプレパラートを作成している。同定結果の概要は、カイノキ *Pistacia chinensis* が最も多く、柱材にはヒノキ科 *Cupressaceae* やノグルミ *Platycarya strobilacea* が多い。そして木製品には櫛や蝶形器、筒形木器などに芯を外したクワ属 *Morus* がやや多くみられるのが特徴である。

実測調査のほうは、主要な器種に重点を置きつつ、組成をおおむね把握できるように進めてきたが、現場から取り上げた木製品のみを対象としていたため、柱の実測はこれまで行っていなかった。前年に角柱1点が現場から取り上げられたことから、2017年秋の調査で初めて柱の図化を進めることができた(写真4)。柱の樹種はフウ *Liquidambar formosana* で、木取りをみると芯持材だが、柱の横断面は方形で角柱となっている。四つの面を石斧で削り出した際の加工痕が非常に明瞭に残っており、あたかも鉄斧を使ったかのような顕著な刃こぼれの跡も確認できる(写真5)。加工痕の記録にあたっては、ラップで覆った上から油性マジックでなぞり(写真6)、それを実測図に反映させたほか、拓本、写真など他の方法も併用した。また、刃こぼれ痕については、シリコンを用いてレプリカ法による記録も試みた。植生史の分野で成熟してきた手法が木製品に残る加工痕の記録に際しても有効性をもち、データが蓄積すれば石斧との比較により将来的に加工工具の特定につながる可能性もあるという見通しをもつことができた。

今後は、同じ浙江省の杭州市にある良渚遺跡群で出土した木製品についても調査を進め、稲作文明史のなかで木製品がどんな役割を果たし、木材利用がどのような意味あいをもつのか、検討を深めたいと考えている。

参考文献

- 中村慎一, 編. 2010. 浙江省余姚田螺山遺跡の学際的総合研究. 平成18-21年度科学研究費補助金(基盤A)(課題番号18251009)研究成果報告書. 267 pp. 金沢大学人文学類フィールド文化学研究室, 金沢.
- 中村慎一・楨林啓介・村上由美子・小柳美樹. 2008. 中華人民共和国浙江省田螺山遺跡. 考古学研究 55(3): 118-120.
(村上由美子・鈴木三男 Yumiko Murakami and Mitsuo Suzuki)



写真6 ラップを用いた加工痕記録作業。